中華書局刊行新舊『搜神記』收錄說話の對照（一）

大橋由治

はじめに

『搜神記』研究は上村幸次「搜神記私考」『大谷學報』21―4（1940）を濫觴とする。この濫觴期の論文が主に扱っているテーマはテキストの問題であるが、この問題は李劍國「二十卷本《搜神记》考」『文獻』2000(4)にいたるまで重要なテーマであり續けている。この問題は『四庫全書總目提要』で提起された問題點を繼承しながら深化してきたものである。

『四庫全書總目提要』で問題としているのは、現行の『搜神記』が二十卷であるのに對して『隋書』經籍志、『新唐書』藝文志、『舊唐書』經籍志では三十卷と著錄し、『宋史』藝文志は搜神總記十卷、干寶撰とし、『崇文總目』では搜神總記十卷は『宋史』藝文志と同じであるが撰人の名を記していないうえに「干寶撰と云ふは非なり」と述べているように、歷代目錄に著錄されている卷數などとは相違していることである。こうしたことから果たして現行の二十卷本が干寶の原書なのかどうかということが重要な問題とされてきた。

現行の『搜神記』は明代に胡震亨が刊行した『祕册彙函』に收錄されたものを源とする。『祕册彙函』は火事により廣く流通していないが、燒け殘った版木は毛晉の『津逮祕書』へと引き繼がれて出版された。その後、この『祕册彙函』

を源とする『搜神記』は『學津討原』にも收錄されており、この『學津討原』の本文が最も校訂が行き屆いているとされている。

歷代目錄の『搜神記』に關する記述が時代を追うごとに不透明になり、卷數も減り、さらにはやがて目錄中には記述すら見えなくなっており、『搜神記』は目錄上では佚書となった。現行の二十卷本『搜神記』は散佚していたものが突如として明代の叢書に收錄されたものである。そこでその素性が問題とされてきた。

『四庫全書總目提要』では眞僞を檢證する手立てとして類書や注などに引用された『搜神記』の說話と二十卷本との比較を試みている。

太平廣記の引く所を考ふるに一一此の本と相ひ同じきなり。古書の引く所を以て之を證するに、裴松之の三國志註に、魏志明帝紀に其の柳谷石の一條を引き、齊王芳の紀に火浣布の一條を引き、蜀志糜竺傳に其の婦人の寄載の一條を引き、吳志孫策傳に其の于吉の條を引き、吳夫人傳に其の夢月の一條を引き、朱夫人傳に其の朱主の一條を引き、皆具に此の本の中に在り。劉孝標の世說新語の註に其の盧充の金盌の一條を引き、劉昭の續漢志は五行志の荊州の童謠の條下に其の華容の女子の一條を引き、建安四年、武陵の充縣、女子の重生の條下に其の李娥の一條を引き、桓帝の延熹七年の條下に其の大蛇德陽殿に見ゆの一條を引き、郡國史の馬邑の條下に其の秦人城を築くの一條を引き、故道の條下に其の旄頭騎の一條を引き、李善王粲の文叔良に贈る詩に註し、其の文穎字は叔良の一條を引き、思元の賦に註し、其の張車子の一條を引き、鮑照の擬古の詩に註し、其の太康帕頭の一條を引き、劉知幾の史通に其の王喬飛鳥の一條を引くも、亦た皆具に此の本の中に在り。此の本は卽ち寶の原書なるに似たり。

惟だ太平寰宇記の靑陵臺の條下に其の韓憑蛺蝶に化すの一條を引くは、此の本乃ち鴛鴦に化すに作る。郭忠恕の佩觿の上篇に干寶の搜神記は琵琶を以て頻婆と爲すと稱するも、此の本の吳の赤烏三年豫章の民楊度の一條に凡そ三

たび琵琶の字を見、安陽城の南亭の一條にも亦た琵琶の字あり、均しく頻婆に作らず。又た續漢志の地理志に註し、緱氏の條下に其の延壽亭の一條を引き、巴郡の條下に其の澤中に龍有り鼓を鳴らせば則ち雨ふるの一條を引き、五行志の建安七年、醴陵山鳴るの條下に其の山鳴を論ずるの一條を引き、李善の蜀都賦の註に其の澹臺子羽の一條を引き、陸機の皇太子元圃に宴する詩に其の程猗の說石圖一條を引くも此の本亦た皆之無し。六卷七卷に至りては全く兩漢書の五行志を錄す。司馬彪は寶の前に在りと雖も續漢書は寶應に見るに及ぶべし。決して連篇鈔錄し一字も更めざるの理無きに似たり。殊に疑ふべしと爲す。

然れども其の書は敍事古雅多く、而して書中の緒論も亦た六朝人に非ざれば作る能はず、他の僞書と同じからず。

余嘉錫『四庫提要辨證』は『四庫全書總目提要』よりも詳細な檢證を行い、「此の書、固より本づく所有り、絕へて壁に嚮ひて虛造せるに非ず」と判斷している。提要で指摘する韓憑夫妻の故事は蝶に化したのは衣服で、鴛鴦に化したのは夫妻の精魂であることを他の類書を用いて檢證している。琵琶の語に關しては傳本の違いと指摘している。さらに五行志からの全錄とされた部分に關しても、完全に文言が一致するものは半分に過ぎないことを指摘している。こうしたことから「余謂へらく此の書後人の綴緝に出づるに似たり。但だ十の八九は、干寶の原書に出づ」と判斷している。

現行の二十卷本が干寶の原書でなく、輯佚本であることはその後の范寧「关于〈搜神记〉」『文學评论』1964（1）、李劍國「二十卷本《搜神记》考」『文獻』2000（4）等の論考でも承認されている。そこで問題となるのが輯佚資料の眞僞、再編のスタイルが原書に符合しているのかという點であり、終局的にはできるだけ原書に近い姿を復元することが『搜神記』のテキスト研究の重要課題となる。

汪紹楹が詳細な校注を施した中華書局發行の『搜神記』は464條の說話についてそれぞれ『搜神記』を出典として引用している所と其の說話と同じ內容を載せる他書を調査している。さらに胡震亨が漏らした佚文34條を探し出している。

これにより『搜神記』研究の礎を築いたと言えるだろう。しかし、説話の來源に關して不完全な點があるのと、來源の判斷を誤っているものが含まれている。

周俊勛の「二十卷本《搜神记》的构成及整理」『西南师范大學學报』（人文社會科學版）2003(3)、「《搜神记》语料构成及整理」『北京科技大學學报』2004（3）では『搜神記』の説話として引用例のある286條について、一種の資料に引用されるものと、多數の資料に引用されるものに分類し、多數に引用されるものをさらに引用書閒で文章が同じもの、引用書閒で文言が異なるか語句に部分的に出入のあるもの、同一人物の異なる事柄が二種以上の異なる書籍に涉って引用されているものの三種に分類している。これらの異なる狀況の説話それぞれを考察した結果、286條の中、原書に收載されていたと判斷できる230條と、整理したうえで資料としての利用が可能と判斷した43條を併せた273條を考察の資料として、『搜神記』の輯錄方式を檢討している。

魯迅は『中國小說的歷史的變遷』の中で『搜神記』を「半眞半假的書籍」と評しているが、現在ではこの評價を妥當なものとして廣く承認している。その上で汪紹楹、李劍國、周俊勛のような輯錄說話の眞僞を檢討することは大きな課題である。それともう一點、森野繁夫「搜神記の篇目」『廣島大學文學部紀要』24（1965）で指摘されているように『搜神記』には篇目が設定されていたことが伺えることから、干寶がこの書を編集したときの體例を考察することも復元作業には重要な課題として殘されている。李劍國『新緝搜神記』（中華書局2007）では文獻中に殘された篇目をもとに說話を再編し、本文に關しても二十卷本の本文を類書等の引用文に改めるなど意欲的な編集をしている。

中華書局から刊行されている新舊の『搜神記』の說話の對照表を後に示す。これをみて分るとおり、李氏の『新緝搜神記』は明代の『搜神記』をもとにした汪氏の『搜神記』から大きく改編している。類書の引用例を根據として說話の削除、合併を行っている。汪氏が逸文として提示したものを本文に編入し、さらに自らが見出した逸文も本文に編入し

ている。ただ、取捨選擇に關しては完全に類書の引用例の有無に則って行われているわけではない。引用例が無いものを殘し、引用例のあるものを削除している場合がある。

引用例の有無は說話の信憑性にとって重要な基準であるが、類書の引用文がすべて原書の通りに行われていると見なすことには問題がある。それは實際に見比べてみるとわかるのだが、同一の類書に同じ說話がそれぞれ異なる卷に引用されている例において、その引用文が異なることがままあるからである。類書の中には原文をそのまま引用していないものがあるのである。表には引用例の有無を記した。複數の引用例が有るものは複とした。△は引用書の書名が『搜神記』となっていないが、汪氏、李氏が『搜神記』と見なしたものである。

No.	標題	卷數	新緝卷數	新緝No.	引用例	備考
1	神農	一	卷一神化篇一	291	有	
2	赤松子	一	卷二十四	1	有	
3	赤將子轝	一	卷一神化篇一	3	有	
4	寧封子	一	卷一神化篇一	2	有	
5	偓佺	一	卷一神化篇一	4	有	
6	彭祖	一	卷一神化篇一	5	複	
7	師門	一	未收		無	
8	葛由	一	卷一神化篇一	6	有	

9	崔文子	一	卷一神化篇一	8	有	
10	冠先	一	一神化篇一	10	有	
11	琴高	一	卷一神化篇一	11	有	
12	陶安公	一	未收		無	
13	焦山老君	一	未收		無	
14	魯少千	一	卷一神化篇一	15	複	
15	淮南八公	一	卷一神化篇一	16	有	
16	劉根	一	未收		無	
17	漢王喬	一	卷一神化篇一	21	無	
18	蘇子訓	一	卷一神化篇一	22	複	
19	漢陰生	一	卷一神化篇一卷	11	有	
20	平常生	一	卷一神化篇一	19	有	
21	左慈	一	卷二神化篇二	27	複	
22	于吉	一	卷二神化篇二	28	複	
23	介琰	一	卷二神化篇二	29	有	
24	徐光	一	卷二神化篇二	31	複	
25	葛玄	一	未收		無	
26	吳猛	一	未收		複	新緝『搜神後記』卷一所收

27	園客	一	未收		無
28	董永	一	卷八感應篇五	86	有
29	鈎弋夫人	一	卷一神化篇一	17	複
30	杜蘭香	一	未收		無
31	弦超附智瓊	一	卷七感應篇四	81	複
32	壽光侯	二	卷二神化篇二	26	有
33	樊英	二	未收		無
34	徐登	二	卷二神化篇二	25	無	新緝は舊35・舊36と合併
35	趙昞	二	卷二神化篇一	25	複	新緝は舊34徐登に合併
36	徐趙清儉	二	卷二神化篇一	25	有	新緝は舊34徐登に合併
37	東海君	二	卷六感應篇三	68	有	
38	邊洪	二	未收		無	
39	鞠道龍附黃公	二	未收		無	
40	謝紀	二	未收		有	新緝『搜神後記』卷一所收
41	天竺胡人	二	卷二神化篇一	35	複	
42	扶南王	二	卷二十五	306	有	
43	賈佩蘭	二	卷七感應篇四	75	複	
44	李少翁	二	卷二神化篇二	24	有	

45	營陵道人	二	卷二神化篇二		複
46	白頭鵝	二	未收		無
47	石子岡	二	卷二十三	285	複
48	夏侯弘	二	未收		無
49	鍾離意	三	未收		無
50	段醫	三	未收		無
51	臧仲英附許季山	二	卷三神化篇三	36	複
52	喬玄附董彥興	三	卷三神化篇三	37	有
53	管輅（一）	三	卷三神化篇三	38	有
54	管輅（二）	二	卷三神化篇三	39	無
55	管輅（三）	三	未收		無
56	管輅（四）	三	未收		無
57	淳于智（一）	二	卷三神化篇三	41	複
58	淳于智（二）	三	卷三神化篇三	42	有
59	淳于智（三）	三	卷三神化篇三	43	複
60	淳于智（四）	三	未收		無
61	郭璞（一）	三	未收		無
62	郭璞（二）	三	卷三神化篇三	45	複

63	郭璞（三）	三	卷三神化篇三	44	有														
64	郭璞（四）	三	未收		無														
65	費孝先	三	未收		無														
66	隗炤	三	未收		無														
67	韓友	三	未收		無														
68	嚴卿	三	未收		無														
69	華陀（一）	三	未收		無														
70	華陀（二）	三	未收		無														
71	風伯雨師	四	卷六感應篇三	63	有														
72	張寬	四	未收		無														
73	灌壇令	四	未收		無														
74	胡母班	四	卷六感應篇三	66	複														
75	馮夷	四	卷一神化篇一	14	有														
76	河伯壻	四	未收		無														
77	華山使	四	未收		無														
78	張璞	四	卷六感應篇三	69	複														
79	建康小吏	四	未收		無														
80	宮亭湖（一）	四	卷七感應篇四	78	複														

81	宮亭湖（二）	四	未收		無	
82	驢鼠	四	未收		無	
83	青洪君附如願	四	卷六感應篇三	70	無	
84	黃石公祠	四	卷六感應篇三	73	複	
85	樊道基附成夫人	四	卷七感應篇四	82	有	
86	戴文謀	四	卷六感應篇三	65	複	
87	糜竺	四	卷七感應篇四	77	複	
88	陰子方	四	卷八感應篇五	84	複	
89	蠶神	四	未收		無	
90	戴侯祠	四	卷六感應篇三	72	複	
91	劉玘	四	未收		無	
92	蒋山祠（一）	五	卷六感應篇三	71	複	
93	蒋山祠（二）	五	未收		無	
94	蒋山祠（三）	五	未收		無	
95	蒋山祠（四）	五	未收		有	新緝『搜神後記』卷三所收
96	蒋山祠（五）	五	未收		有	
97	丁姑祠	五	卷七感應篇四	80	複	
98	趙公明參佐	五	卷六感應篇三	67	複	

99	周式	五	卷二十二	276	複													
100	張助	五	未收		無													
101	新井	五	未收		無													
102	妖怪	六	卷十妖怪篇一	109	有													
103	山徙	六	卷十妖怪篇一	110	有													
104	龜毛兎角	六	未收		無													
105	馬化狐	六	卷十妖怪篇一	111	有													
106	人化蜮	六	卷二十變化篇五	259	有													
107	地暴長	六	卷十妖怪篇一	114	有													
108	一婦四十子	六	卷十妖怪篇一	112	△													
109	人產龍	六	卷十妖怪篇一	113	△													
110	彭生	六	未收		無													
111	蛇鬬	六	未收		無													
120	龍鬬	六	卷十妖怪篇一	115	有													
119	蛇繞柱	六	卷十妖怪篇一	116	複													
118	馬生人	六	卷十妖怪篇一	117	有													
117	女子化男	六	卷十妖怪篇一	118	有													
116	五足牛	六	卷十妖怪篇一	119	△													

117	臨洮長人	六	未收		無	
118	龍見井中	六	卷十妖怪篇一	120	有	
119	馬生角	六	卷十妖怪篇一	121	△	新緝は舊120に合併
122	狗生角	六	卷十妖怪篇一	121	有	新緝は舊119に合併
121	人生角	六	卷十妖怪篇一	122	有	
122	狗與豕交	六	卷十妖怪篇一	123	有	
123	黑白烏鬬	六	卷十妖怪篇一	124	無	
124	牛足出背	六	卷十妖怪篇一	125	△	新緝は舊152に合併
125	趙郭蛇	六	卷十妖怪篇一	126	複	
126	鼠舞門	六	未收		無	
127	泰山石立	六	未收		無	
128	蟲葉成文	六	未收		無	
129	狗冠	六	未收		無	
130	雌雞化雄	六	卷十一妖怪篇二	127	有	
131	范延壽	六	卷十一妖怪篇二	128	複	
132	天雨草	六	未收		無	
133	廢社復興	六	卷十一妖怪篇二	129	有	
134	鼠巢	六	卷十一妖怪篇二	130	有	

135	犬禍	六	卷十一妖怪篇二	131	有	
136	戴焚巣	六	未收		無	
137	雨魚	六	未收		無	
138	木生人狀	六	卷十一妖怪篇二	134	有	新緝は舊142に合併
139	馬生角	六	卷十一妖怪篇二	133	無	新緝は舊141と合併
140	燕生雀	六	卷十一妖怪篇二	132	△	
141	三足駒	六	卷十一妖怪篇二	133	△	新緝は舊139と合併
142	僵樹自立	六	卷十一妖怪篇二	134	有	新緝は舊138と合併
143	兒啼腹中	六	卷二十一	163	有	
144	王母傳書	六	未收		無	
145	男子化女漢哀帝時	六	卷十一妖怪篇二	135	有	
146	人死復生	六	卷十一妖怪篇二	136	複	
147	兒生兩頭漢平帝時	六	卷十一妖怪篇二	137	△	
148	三足烏	六	未收		無	
149	德陽殿蛇	六	卷十二妖怪篇三	138	複	